



おやこ大学だより

2017年度 5号 (2017. 08. 1) Vol.75



ごあいさつ

みなさん、こんにちは！お元気でしたか？

7月は当センターで「おやこ大学」を開催しました。全4回で行われたこの講座には、たくさんの親子にご参加いただきました。

おやこ大学では、皆さんと一緒に「学ぶ」「触れ合う」「つながる」ことができる内容をお届けしています。

今月のおやこ大学だよりでは、そのなかから「タッチケア講座」をご紹介しますね。

タッチケア(ベビーマッサージ)で 楽しいコミュニケーションTime

タッチケアのコンセプトは「赤ちゃんの親の心と体が触れ合うことにより、親子のきずなを深めることの大切さを唱える」(日本タッチケア協会 HP より) ことです。

今回のタッチケア講座でも担当講師より、具体的なやり方と効果を伝えていただきました。

ポイントは、子どもと「目を合わせること」です。加えて子どもからみて「見える位置」を意識する大切さも伝えていただきました。

子どもの視線から考えて「見える位置」ですが、赤ちゃんが母乳やミルクを飲む時期から自然と叶えられています。母乳やミルクを与える頃の赤ちゃんは、だいたい 20 cm くらいの距離から見始めます。まさに、抱っこをして与える距離がちょうど 20 cm なのでベストポジションになります。

タッチケアをする時も、目と目が合っている感覚を大切に「気持ちいいね」など声をかけることで、親もリラックスしながら素敵な時間を過ごすことができるでしょう。



ご用心!! 夏に起こりやすい子どもの事故

夏は長期のお休みがあり、親子で外に出かける機会が増えますね。子どもの頃の楽しい思い出は、大きく成長した後も親子で楽しめる会話の一つになります。

そんな楽しい夏の思い出となるために、子どもの安全を守る注意を消費者庁 (<http://www.caa.go.jp/>) が発信しています。7月12日から8月までは「子どもの安全メール」や「子どもを事故から守る! 公式ツイッター」(https://twitter.com/caa_kodomo?lang=ja)」で水の事故、花火でのやけど、おもちゃ類の誤飲に関する情報を発信しています。どちらも今の時期に注意すべき情報をキャッチするには便利かもしれません。

手足口病にご注意

このところ、手足口病が急増傾向にあることが、ニュースで取りざたされていますね。手、足、口に現れる水泡性の発疹が特徴で、急性ウイルス感染症です。乳幼児を中心に夏季に流行します。基本的には、数日のうちに治りますが、時に、合併症を起こすことがあります。感染経路は飛まつ感染、接触感染、便の中に排泄されたウイルスが口に入る感染があります。

予防のための大切なポイントは、流水での手洗いです。タオルの共用はしないことも大切です。おむつ替えの場面でも排泄物の処理を適正に行いましょう。親も手洗いをし、感染経路を作らないことも基本となります。

感染予防の基本はどんな病気であれ、流水での手洗いが第一になります。

一年を通して日常生活の中で、手を洗うことを習慣にして元気に過ごしたいですね。



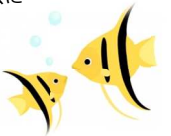
草加市共催講座を開催いたしました

「上手にほめる・上手に叱る」～して欲しいことを上手に言葉で伝える方法～

6月24日と7月1日の全2回、草加市子育て支援センターの子育てコーディネーターさんによる講座が開催されました。上手にほめるためのポイントや、叱るうえでついやってしまいがちな事をロールプレイ形式で、教えていただきました。実際に子どもの側に立って体験してみると、いろいろなことに気付かされました。

普段、何気なく「いい子にしてね」「ちゃんとしてね」という言葉を使っていると思いますが、受け手側からすると何をどうすればよいのかわかりませんし、子育てだけでなく、人間関係を築く上で、言葉はとても重要で、話すときには誰でも言葉を選んで話しますよね？廊下を走っている人に「ここは走らないで」と伝えるよりも、「ここは歩きましょうね」と伝えた方が、相手に伝わる印象も違いますが、伝え方にもいろいろあるのだという事を改めて感じました。

肯定的に伝えるという事は、ちょっと難しい感じもしますが、あらためて言葉を学ぶ良い機会になると思います。



「シアワセを獲得できる子どもを育てるために」 講師：布柴 靖枝先生

7月15日に文教大学臨床心理学科教授、文教大学大学院臨床心理学専攻長であり、国連総会第3委員会政府代表顧問でもある、布柴靖枝先生をお招きし、シアワセを獲得できる子どもを育てるために、私たちが子どもとどう関わっていけばよいのかというお話をさせていただきました。

子育てにおいて何が大切で、何を重要視すべきかという事を考えさせられる講話であり、生きていくなかのヒントになるような、本質を突いたお話をたくさんしていただきました。

家族や未来が多様化していく中で、一番大切なのは、自分で自分の人生を選び取れる人になるということが大切だということで、子ども自身に自分の本当の気持ちを気付かせた上で、問題に直面したときに、子ども自身が自己決定できるようにサポートしていく子育てがベストであることを教えていただきました。

シアワセとは何か？という事は、私たちにとても難しい問題だと思いますが、幼少期に自己肯定感を育むことは、今後の人生を大きく左右してくる問題なのだ実感いたしました。

やってみよう！

こんにちは。事務局の遠山です。今回、私もちょっとだけ記事に参加させていただくことになりました。

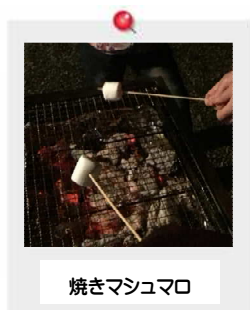
子育てに関する内容だったり、何気ない日常の『面白い』を切り取ってみたり、テーマはばらばらになると思いますが、その時その時に感じた事などを、お送りしていけたらと思っております。記念すべき第一弾、何を書こうか迷いましたが、夏という事もあり、アウトドアを計画されているご家庭もあることだと思われるので、一つご紹介いたします。

我が家では昨年キャンプに行くようになり、先日も川遊びや、魚釣り、星空観測など、大自然を満喫してきました。キャンプといえば、バーベキュー!! 野菜やお肉を焼いて、美味しいひと時を楽しみますが、そんなバーベキューにオススメするのが『焼きマッシュマロ』。竹串などにさして、網の上にかざすだけで、外はカリカリ、中はとろとろ。衝撃的な美味しさです!! アルミ皿に生クリームと板チョコを入れて、『チョコレートフォンデュ』を作ってみるのもオススメですし、特産の果物を買って、食後のデザートにするのもオススメです!

食と記憶は結びつきやすいものなので、夏の思い出がより一層、鮮明に記憶されるのではないのでしょうか? とっても簡単なので、お子様と一緒にぜひ試してみてください。



子ども達が釣った魚



焼きマッシュマロ



スーパーで買ったピザ

毒虫に注意してください

先日、子どもがヤマカガシに噛まれるという事件があったと思いますが、アウトドアをする上で、注意していただきたいのが毒虫対策。かくいう私もキャンプ場で蜂に刺されて病院に行ったという苦い経験がございます。

蜂の名前は定かでないのですが、突然左足に激痛が走り、まるで線香の火を押し当てられたかのような痛さで、大パニックになり、黄色の大きな蜂が飛び去っていったのを見て、蜂に刺されたのだと気付きました。

蜂に刺されたら、きれいな水で幹部を洗い流し、ポイズンリムーバーなどで毒を吸出し、薬を塗って病院に行くのが、基本的な流れになります。この時、注意したいのは、決して口で毒を吸い出さないようにしてください。ポイズンリムーバーを持っていない場合は、早急に病院に行って処置してもらいましょう。

虫よけスプレーを使用することや、黒い服装を避けるといった基本的な事に加えて、応急処置用の道具と薬は用意しておく事をおすすめいたします。ポイズンリムーバーは、アウトドアショップなどで売られていますので、せっかくの夏休みを楽しく過ごすためにも、必要最低限の準備はしておきたいものですね。

そして、事前に使い方を確認しておきましょう。いざという時に、使い方がわからなくては意味がありませんし、説明書を読んでいる余裕も時間もありません。備えあれば憂いなし! です。



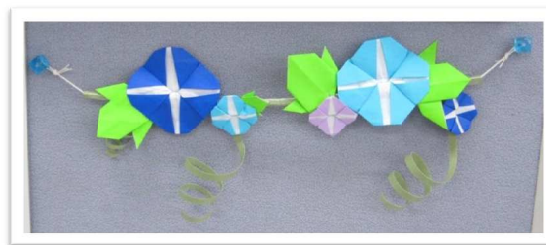
ポイズンリムーバー



次回号をお楽しみに

子どもが小さい頃、夏の夜のお楽しみといえば、家で家庭用の花火をよくしました。今ではもう大きく成長してしまい自然とやらなくなりましたが、スーパーで花火売り場を見かけると、あの頃の楽しい夕飯後の花火を思い出します。皆さんにとって素敵な夏の思い出ができますように。

また、次回お会いしましょう。



♪ 獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンターからのお知らせ♪

夏休みのイベント

● 2017年8月21日(月)22日(火) 2日間

子どもワークショップ(対象:小5、小6)

「トラブルかいつにん養成講座入門編」～弁護士と一緒に考える、トラブルの解決の仕方～

専門相談のお知らせ

2017年8月9日(水)14時半～16時半 作田 亮一先生(獨協医大越谷病院子どものこころ診療センター)

2017年8月22日(火)10時～13時 植竹 薫先生(文教大学臨床相談研究所、臨床心理士)

2017年8月24日(木)13時～15時 川原 祐介弁護士(獨協地域と子ども法律事務所)

※すでに定員一杯でキャンセル待ちとなる場合があります。お問い合わせください。

お問い合わせ・投稿はこちらまで

獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンター

〒340-0041 埼玉県草加市松原1-1-10 TEL.048-946-1781 FAX.048-946-1782

E-Mail: kodomolc@dokkyo.ac.jp

子どもに関する相談(無料) 月～金 9時～17時 048-946-1771

※祝祭日はお休み

